327
726

農商工統計調査心得

327-72

大正四年七月發行

農商工統計調査心得

大正
4. 7. 28
内交

大正四年十月購入

農商務省統計調査部

大正
4.7.24
受入

自序

予曾テ統計事務ニ關シ各町村ヘ出張ノ際稀レニ吏員ノ談ヲ聞クニ生産統計ノ如キハ規程ニヨリ報告期日内ニ調製表報告シツヽアルモ其材料蒐集ニ至リテハ事實調査ノ餘裕ナキヲ以テ不得止前年報告ノ分ニ對シ增訂ヲ加ヘ製表報告スルニ過キスト此ノ言ヤ或ハ事實ナルモノヽ如シ如何トナレハ何等材料ナキハ勿論表ノ内容ヲ調査スルニ粗漏杜撰等實ニ言語ニ盡シ難キモノアリ諸統計中産業統計ノ正確ヲ期スルノ困難ナルハ今更言ヲ俟タスト雖モ統計思想ノ發達セル地方ニアリテハ町村役場當業者ノ實査又ハ調査委員ノ提出セルニヨル等進歩セル調査方法ニヨリ頗ル精密ナル調査ヲナシツヽアリ要スルニ執務者タルモノ統計ノ效用ト様式ノ精神ヲ了解シ專心其ノ事務ノ改善ニ留意セハ近キ將來ニ於テ必スヤ完全ノ域ニ達スル敢テ難キニアラサル可シ

予乏シキヲ本郡吏員ニ承ケ産業統計ノ事務ニ從事シツヽアルヲ以テ町村實務者ノ參考ニ資シ以テ之カ改善ヲ圖ラン爲メ理論ヲ省略シ統計ノ效用、調査ノ方法及様式ノ説明等實際的方面ニ付キ其ノ要項ヲ記載セリ實務者諸氏幸ニ此ノ意ヲ諒セラレンヿヲ望ム

大正四年七月

天野廣識

凡例

一、本書第一編ハ統計講義及予カ町村ニ於テ講述シタル材料ヲ基礎トシ之ニ增訂ヲ加ヘタルモノナリ

一、第二編大正四年二月二十二日發布本縣訓令甲第二號農商工統計様式ニ就キ之カ疑義ヲ説明シタリ

一、本書ハ町村實務者ノ參考ニ供センカ爲メ編纂シタルモノナルヲ以テ勉メテ實例ヲ擧ケ理解ニ便ナラシメタリ

一、緒論ニ掲ケタル説明ニ就テハ細野先生ノ所説ニ負フ所アリ又様式中專門的事項ニ關シテハ本縣報記載ノ要領ヲ登載シタルモノアリ

大正四年七月

著者誌

農商工統計調査心得目次

第一編　緒言

第一章　統計ノ趣味及効用……一

第二章　統計執務者ノ尤モ注意スヘキ事項……一

第三章　調査ノ際當業者ニ接スル心得……三

第四章　報告期限ノ恪守……四

第五章　産業統計取扱者ノ責任……五

第六章　正確ナル産業統計ヲ得ルノ困難ナルコト……六

第七章　推計ノ方法……六

第八章　調査ノ方法……七

第九章　坪刈ノ方法……八

第十章　統計表記載方ノ注意……一〇

第二編　農商工統計様式

第一章　臨時報告並ニ農商工統計ニ關スル様式……一

農商工調査統計心得

第一編　緒言

第一章　統計ノ趣味及効用

統計ハ數字ヲ縱横ニ列シタルニ見乾燥無味ナル如キ憾アレトモ之ヲ吟味スル時ニ於テハ社會ノ眞相ヲ説明セル大文章ナリ國家ハ行政及經濟上ノ施設經營ニ關シ尤モ肝要ナルモノナリ故ニ正確ナル產業統計ヲ要望スルニ至レリ然レトモ統計材料供給ノ根源タル町村ニ於テハ往々統計ノ何タルヲ解セサル者アリテ義務的報告ヲナスカ如キモノアリ又其ノ報告スル所ノ材料ノ疎漏杜撰ナル實ニ遺憾トスル所ナリ而シテ町村人民ヲシテ統計ノ尤モ必要ナルヲ感知セシメ之カ調査ニ注意シ正確ナル材料ヲ報告セシムルハ頗ル困難ナルヘシ然ラハ如何ニシテ統計ノ必要ヲ感知セシムヘキヤ先ツ以テ統計ノ趣味ヲ解セシムル事肝要ナリト信ス依テ其ノ方法ニ就テハ第一統計教育ノ普及ヲ計ルヲ第一トス故ニ郡町村統計主任ナルモノハ時期ヲ見計ヘ統計講話並ニ統計事務打合ヲ開設シ統計上ノ趣味ヲ養成シ正確ナル統計ヲ得ルコトニ努メラレンコトヲ望ム所以ナリ

第二章　統計執務者ノ尤モ注意スヘキ事項

和蘭ノ統計學者（ヒツセリング）ハ統計事務ニ從事スル者ハ左ノ注意ヲ要セリト謂ヘリ

一、公平中正ニシテ偏頗ナク事實有リノ儘ヲ表章スルコト

例ヘハ町村ニ於テ百町歩ノ開墾地ニ陸稻ヲ作付セリトシ内八十町歩ハ開墾成功許可濟ナルニヨリ調査シ殘リ二十町歩ハ實際作付シ收穫ヲ得タルモ無願開墾ナル故ヲ以テ隱蔽シ調査セサル時ニ於テハ各町村共如斯方法ヲ以テ調査セシ時ニ於テハ一郡一國ニ於テハ輸出入ニ重大ナル影響ヲ及ホシ爲メニ國家施設經營ノ方針ヲ虞ル事アルヘシ故ニ統計執務者ハ事實有ノ儘ヲ表章スルカ如キモノナリ

二、勞ヲ厭ヒ速成ヲ欲シ不備ノ材料ニ滿足スベカラサルコト

三、憶測スヘカラサルコト

例ヘハ繭生產額ノ豫想ヲ爲ス場合ニ何等ノ材料ニ依ラス何萬石位トナルヘシト相像スルカ如シ

四、既知ノ事實ヨリ未知ノ事實ヲ推斷スル場合ニ於テハ須ラク謹愼スルヘキコト

例ヘハ米麥ノ豫想ヲ爲ス場合ニ前年何萬石ナリシヲ以テ本年モ何萬石ナラント推斷スルハ非ナリ即チ其ノ年ノ氣候ノ適否、發育ノ良否、作付反別ノ增減、施肥、耕耘、病害虫ノ被害等諸般ノ事情ニ就キ注意セサル可ラス

本邦ニ於ケル統計ノ開祖法學博士杉享二先生ノ統計家十戒タルモノアリ統計家ハ宜シク座右ノ銘トナシ研究セラルヘシ

一、統計ニ從事スル者ハ責任ヲ重ンスヘキコト

二、謹愼ニシテ疎忽ニ爲スヘカラス

三、堅ク中立ヲ守ルヘキコト

四、偏頗ノ事アルヘカラス

五、政黨ニ加入スヘカラス

六、數字ニ屢々正誤ヲ爲スヘカラス然ルトキハ統計ノ信用ハ地ニ墜ツヘシ

七、事實ヲ主トシ一意之ニ據ルヘシ

八、事實ナル數字ヲ私ニ增減スルハ大禁タルヘシ

九、有ル物ヲ有リトシ無キモノヲ無シトシ足ラサルモノハ足ラストシ知レサルモノハ知レストシ其事物ヲ知リ得ヘキコトヲ務メ妄リニ憶測ヲ用フヘカラス

一〇、世間ノ狀態及習慣ニ注意シテ常ニ怠ルヘカラス

第三章　調査ノ際當業者ニ接スル心得

町村統計調査委員ニ於テ當業者ノ各戸ニ就キ統計上ノ調査ヲ爲スニ當テハ聽取方法宜シキヲ得サル可カラス若シ其ノ方法ニシテ宜シキヲ得サルニ於テハ當業者ヲシテ調査ノ趣旨目的ヲ充分ニ了解セシムルコト能ハサルヘシ然ルトキハ到底滿足ナル答ヲ得ルコト能ハスシテ遂ニ完全ナル調査ヲ爲シ得サルニ終ルベシ依テ充分注意セラルヘシ

一、問フ方ハ分リ易キ樣ナスヘキコト

聽取ルヘキ事柄カ明瞭ニ當業者ニ會得セラルヽニ非サレハ其答ニ誤ヲ來スハ當然ナリ故ニ調査委員ハ聽取ノ事柄ニ就キ何人ニモ疑義ヲ生セシメザル樣尤モ注意セサル可カラス「明治初年戸數ノ調査ヲ爲セシニ雨戸ノ數ヲ報告シタルモノ又公生子、私生子等ノ調査ヲ行ヒシニ公生子ノ方ヘハ役人ノ子供、私生子ノ方ヘハ普通平民ノ子供ヲ記入シ報告シタル地方アリト謂フ是レ畢竟戸數ノ意義及公生私生ノ區別ヲ明ニ說キ示ササル結果ナルヘシ」

二、調査ノ際疑惑ヲ生セシメサル事

當業者ニシテ課稅ノ用ニ供スルモノナリトノ疑惑ヲ生シタルトキハ事柄ヲ有ノマヽ答フル者少ナカルヘシ故ニ本調査ハ確實ナル產業ノ統計ヲ得ル爲ニ調査スルモノニシテ決シテ課稅ノ用ニ供スルモノニ非サルコトヲ說キ疑惑ヲ解クコトニ勉ムヘシ

三、親切ニ說明ヲ爲スヘキ事

調査要項ニ就テハ親切叮嚀ナル說明ヲ附スルコト必要ナリ然ラサレハ前項ノ如キ不得要領ノ答ニテ趣旨目的ヲ達スル事不可能ナレハナリ

四、當業者ニ對シ手數ヲ掛ケサル事

例ヘハ年齡ヲ調査スルニ何年何月何日生ナリヤト問ハスシテ其誕生ノ月日ヲ聞クカ如シ又家禽ノ調査ヲナスニ當リ雛ノ孵化後何ケ月ナリヤト尋ヌスシテ何月孵化シヤト聞ケハ事實ニ違ヒナカルヘシ

五、少シ聞テ多ク知ル事

當業者ニ當リ極メテ微細ナル事柄ヲ調査シ之ヲ整理スル事能ハス取捨セシ實例アリ成ルヘク有用ノモノヲ聞キ整理シ難キ事ハ聞クヘカラス

六、擧動ヲ愼ミ當業者ニ當ル事

當業者對シ聽取ノ際ハ無益ナル談話ヲナシ時間ヲ費シ業務ヲ妨ケ或ハ强制ガマシキ擧動ヲ爲スガ如キハ人民ノ信用ヲ失スル基ナレハ深ク注意セサル可カラス

七、秘密ニ立入ラサル事

例ヘハ一個人ノ商賣上ノ損益勘定又ハ商品ノ有高、貨幣ノ所有高ヲ問フカ如キハナルヘク避ケサル可カラス是レ當業者ニ疑懼心ヲ抱カシメ統計調査上大ナル弊害ヲ釀スモノナレハ最モ愼マサルヘカラズ

第四章　報告期限ノ恪守

統計樣式ニ夫々報告期限ヲ定メタルハ上級官廳ニ於テ之ヲ整理シ行政及經濟上ノ施設經營ノ資料ニ供センカ爲ナリ例ヘハ本郡ノ生產額統計又ハ一町村ノ生產統計ヲ作ルニ當リ一村或ハ一調査委員ノ報告ナキトキハ整理上甚ダ差支ノミナラス規定ノ報告期限ニ報告スル事能ハサルヘシ（歐米ニ於テハ罰則ヲ設ケ期限

ヲ徳リタルトキハ月俸ノ二分ノ一ヲ減シ或ハ其官ヲ免スルトノ事アルヲ聞ク）依テ此ノ期限ニ就テハ地方長官會議郡市長會議又ハ町村長會議ニ於テハ之カ改善ニ付將來一層ノ注意アラルヘク注意セラレタリ故ニ其ノ局ニ當ル者ハ必ス期限前ニ報告スヘク常ニ心懸ケサルヘカラス

第五章　產業統計取扱者ノ責任

當事者カ孜々トシテ勉勵シ作成セラレタル統計ハ如何ナル効用アリヤト云フニ國家ノ行政若ハ經濟上百般ノ事業ハ此統計ヲ基礎トシテ施設經營セラルルモノナルヲ以テ町村ニ於ケル產業統計事務從事者ノ名譽ハ勿論其責任ハ重且ツ大ナルハ言ヲ待タス如何トナレハ若シ其ノ調査ニシテ疎漏杜撰ナランカ百般ノ施設經營ヲシテ失敗ニ歸セシムヘケレハナリ故ニ產業統計ノ事務ヲ執ル者ハ上級官廳ノ命令ナルヲ以テ不得止義務トシテ統計表ヲ作ルト云フカ如キ感念ヲ去リ一大名譽トシテ其職務ニ當リ下ハ町村ヨリ上ハ一縣一國ノ行政及經濟上ノ方針ヲ定ムルノ資料ニ供スルノ目的ヲ以テ精査製表セサルヘカラス例ヘハ統計上前年ニ比シ衰頽セル產業アリトセハ之カ原因ヲ取調ヘ挽回ノ策ヲ講シ若ハ今日微々タリト雖將來發展ノ見込アル產業ニ就テハ奬勵ノ方法ヲ設クルカ如キ產業上ノ政策ヲ決定スルノ資料ニ供スルハ目的ヲ以テ其ノ事務ニ當ル事肝要ナリ然ルトキハ不知不識事務上ニ趣味ヲ感シ如何ニセハ正確ナル統計ヲ得ラルヘキヤヲ考究スニ至リ統計事務ノ刷新ヲ圖ルコトヲ得ヘシ故ニ根本タル町村ニ於テ單位觀察ノ任ニ當ル者ハ特ニ此ノ点ニ留意シ以テ執務セラルヽコト必要ナリ若シ夫レ期限內ニ報告セハ統計主任或ハ委員ノ責任ヲ果シタリト思量スルカ如キハ誤レルノ甚タシキモノニシテ到底有用ナル材料ヲ得ルコト能ハサルヘシ

聞ク處ニヨレハ米作收穫高ノ豫想ハ各府縣ヨリ八月三十一日迄ニ農商務省ニ到達スル樣報告スルヤ農商務省文書課ニ於ハ即日之ヲ整理シテ統計表ヲ作成シ之ヲ大臣ニ差出シ大臣ハ能筆ノ屬官ヲシテ鳥子紙ニ淨書セシメ之ヲ携帶シテ參內シ天顏ニ咫尺シテ當年米作豐凶ノ狀況ヲ奏上セラルル趣ナリ依テ町村ニ於テ作成

セラルル材料各郡府縣一覽表ト爲リテ天覽ニ供セラルルモノナリ故ニ町村ニ於ケル材料報告者ノ任重且大ナリト謂ハサル可カラス

第六章　正確ナル產業統計ヲ得ルノ困難ナルコト

第五章ニ於テ述ヘタル如ク產業統計ハ施政ノ方針ヲ定メ若ハ實業ノ經營ニ就キ必要缺ク可ラサルモノナルヲ以テ其ノ正確ヲ期セサル可カラス然ルニ產業統計ハ彼ノ司法省ニ於ケル民事、刑事、監獄統計、大藏省ニ於ケル租稅、輸出入貿易、歲入歲出、國債、銀行等ノ統計其他、鉄道、郵便、電信、電話等ノ諸統計ニ比シ其正確ヲ期スルコト極メテ困難ナリ何トナレハ司法、貿易等ノ統計裁判所、監獄、稅關ノ如ク日常取扱ヒタル行政事務ノ結果ヲ整理シ統計ヲ作成スルモノナルヲ以テ少シク注意セハ正確ナルヲ期シ得ヘシト雖モ產業統計材料蒐集ニ付テハ一ニ事務多端ナル町村役場ノ報告ニ信賴スル外ナキヲ以テナリ而シテ町村役場ニ於テ統計調査ニ就キ一定ノ報告用紙ヲ各戸ニ配付シ其記入ヲ待テ之ヲ蒐集シ又ハ吏員ヲ派シ各戸ニ就キ當業者ノ言ヲ筆記セシメ或ハ各戸ニ命シ一定ノ期日迄ニ各自屆出シムル等最善ノ方法ヲ講セントスルモ當業者ハ徵稅ノ用ニ供セラルルヲ虞レ事實ヲ報告スルモノナキヲ以テ實數ヲ得ルコト難カルヘシ況ンヤ右ノ方法ヲ講セス略式方法（俗ニ達觀的調査ト謂フ）ヲ用ユル場合ニ於テヲヤ食用及特用農產物中豌豆蠶豆、瓜、茄、玉蜀黍、蕃茄等ノ如キ成熟ヲ待チ直チニ一二箇ツヽ日々採取シテ消費スルモノニアリテハ其ノ數量ヲ計算シ能ハサルモノ尠ナカラサルヘシ故ニ產業統計ノ調査ニ就テハ單ニ當業者ノ申告ノミニ依賴セス場合ニ依リ推計ヲ用ユルコト却テ正確ヲ期スルノ方法タルコトヲ忘ル可ラス

第七章　推計ノ方法

推計ヲ行ハントセハ確定シタル數ヲ基礎トスルヲ要ス基礎正シカラサレハ全ク價値ナキモノニ終ルヘシ正

シキ推計トハ例ヘハ米麥其他農作物調査ニ就キ先ツ其上中下ノ作付反別ヲ實地踏査シ何町何段歩ト確實ナル數ヲ得次ニ尙其作柄ヲ上中下ノ三階級ニ區別シ各階級ニ就キ平均作柄ト認ムヘキ數箇所ヲ選ミ坪刈ヲ行ヒ又ハ學術若ハ經驗アル老農等數名ノ意見ヲ聽キ之ヲ參酌シテ一坪若ハ一段歩ノ收穫率ヲ定メ之ヲ基トシ總收穫高ヲ算出スルカ如キ是ナリ泰西統計家ノ諺ニ「巧みなる推計は拙なき實計に優る」ト謂ヘリ

工產物、水產物等ノ統計ニ就テハ農作物調査ニ於ケル坪刈方法ノ如ク之ヲ行フコト能ハス單ニ當業者ノ誠實ナル申告ニ依ルノ外ナカルヘシ然リト雖モ前述ノ如ク當業者ハ概ネ課稅ノ標準トナルヲ虞レ內輪ニ報告スルノ疑アルヲ以テ調査ノ任ニ當ル者ハ推計ノ方法ニ依リ當業者ノ申告カ果シテ正當ナリヤ否ヤヲ判定スル事肝要ナルコト恰モ裁判官カ証據ニ依リ事實ヲ斷スルカ如シ例ヘハ工業ニ就テハ其使用スル原動力機ノ臺數及馬力數、職工數及其就業時間、賃金額、投下資本金額、及製造ニ關スル諸般ノ經費及設備等ヲ調査シ當業者ノ申告セシ製造高ニシテ果シテ營業ヲ繼續シ得ラルルヤ否ヤヲ考量セサルヘカラス

第八章　調査ノ方法

第一　調査ノ主旨及目的ヲ當業者ニ周知セシムルコト

町村當局者ハ調査ノ初メニ當リ先ツ調査ノ主旨乃目的ヲ充分ニ說明シ統計ハ課稅ト何等ノ關係ナキモノナルコトヲ當業者ニ周知セシメ調査委員ノ間ニ對シテハ事實ヲ隱蔽スルコトナク事實ヲ答ヘシムルコトニ努メラルヘシ

第二　小票ヲ用ヰテ調査スル事

小票ハ調査委員ヨリ當業者ニ配付シ當業者ヲシテ記入セシムルヲ可トスルモ本郡現時ノ狀況ニ徵スルニ或ル地方ニアリテハ統計思想ノ普及セサルカ爲メ到底完全ナル事實ノ記入ヲナサシムヘカラス故ニ調査委員ハ小票ヲ携帶シテ當業者ノ各戸ニ付調査事項ヲ聽取シ適當ナリト認ムルモノヲ記入スル方却テ適當ナルモ

ノト信ス

第三　調査委員ノ職責

調査委員ハ町村長ヨリ交付ヲ受ケタル小票ヲ各當業者ニ配付シ之カ記入ヲ終リタルトキハ取纒メ一票毎ニ之ヲ精査シ記入ノ誤謬若ハ脱漏アリタルコトヲ發見シタルトキハ速ニ再調又ハ訂正セシムル手續ヲ爲サシメサル可カラス

右ハ小票調査ニ就キ述ヘタルモ地方經濟上ノ關係若ハ當業者教育ノ程度低キカ爲メ記入不可能ナルニヨリ小票ヲ用ユルヲ許ササル場合ニ在リテハ調査委員ハ其地方ニ於ケル産業ニ精通セル者ト協議ノ上最善ノ方法ヲ講シ調査ノ正確ヲ期スルニ努メサル可ラス

第九章　坪刈ノ方法

坪刈ヲ行フニ當ツテ先ツ作付段別ノ調査ヲ爲ササル可ラス之ヲ行フニ當リテハ町村ヲ大字、字等適宜ノ調査區ニ分チ其區域内ノ作付段別ヲ土地臺帳記載ノ地目ノ如何ニ拘ハラス調査委員ノ實地踏査上ヨリ得タル作付段別ニヨリ第七章推計方法ノ部ニ記載ノ方法ニヨリ行フヲ要ス

千葉縣農業生産調査ニ於テ施行セシ坪刈方法ハ稍々精密ノモノナルヲ以テ參考トシテ其大要ヲ左ニ掲ク

水稲坪刈方法

一、水稲ノ坪刈ヲ行フニハ先ツ一調査區（即チ大字、字等）内ニ於テ粳米、糯米ニ就キ早稲、中稲、晩稲ノ各別ニ其作柄ヲ上中下ノ三階級ニ區別シ各作柄ニ就キ一坪ノ平均率ヲ得ヘキ箇所ヲ選定スル事

二、坪刈ノ箇所ハ擔當調査委員及耕作人二名以上立會ノ上之ヲ選定スルコト

三、坪刈ニ使用スル坪框ハ松杉ヲ用ヒ幅三寸内外、厚八分内外ニテ内徑六尺四方ノモノヲ製作スルコト

框ハ携帶及使用ニ便ナラシムル爲メ其四隅ハ「アリ組」ト爲シ蝶番ヒ金物ヲ附シ組解キニ容易ナル樣製作スルヲ妨ケスト雖モ必ス固定シテ歪曲ナカラシムルヲ要ス

四、坪框ノ使用ハ斜框法ニ依リ框ノ一角ヲ前ニ置キ稻株ノ排列ニ對シテ斜メニ之ヲ定置シ其框ノ内部ニ在ル稻株ヲ刈取ルコト

五、刈取ノ時期ハ早稻、中稻、晩稻共一般農家ノ收穫季節ニ依リ其時刻ハ晴天ノ日ニテ午後二、三時頃ニ於テスルヲ適當トス

六、刈取リタル稻穗ハ之ヲ籾ト爲シ粳米糯米各別ニ其桝量ヲ計算シ而シテ芒、粃及藁屑等ハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ除去スルコト

七、生籾ノ減量ハ稻ノ種類、成熟ノ早晩、結實ノ良否籾拵ノ精粗等ニ依リ一樣ナラスト雖モ乾燥減少歩合ハ凡ソ一割乃至二割、籾摺減歩合ハ凡ソ四割乃至五割ヲ以テ標準トス

八、一坪ノ米量ハ生籾ノ桝量ヨリ先ツ乾燥減歩合ヲ減シ次ニ籾摺減シタルモノトス

九、右ノ方法ニ依リ一坪ノ米量ヲ算出シ之ニ三百坪ヲ乘シタルモノヲ以テ一反歩ノ米量トス

陸稻坪刈方法

一、水稻坪刈方法ニ掲ケタル三、四ノ兩項ヲ除キ他ノ各項ハ總テ之ヲ陸稻坪刈方法ニ準用スヘキモノトス但シ粳米糯米ノ區別ヲ爲スヲ要セス

二、陸稻ノ坪刈ヲ行フニハ早稻、中稻、晩稻ノ各別ニ其作柄ヲ上中下ノ三階級ニ區別シ各作柄ニ就キ十坪乃至二十坪ノ方形ニ繩ヲ張リ其内ニアル畦ノ延間數ヲ度リ坪數ヲ以テ之ヲ除シ得タル長サハ即チ一坪ニ於ケル畦ノ延間數トス仍テ此延間數ノ所ヲ一條ニ刈取ルヘキコト

以上千葉縣ニ於テ定メタル米作坪刈方法ニ就キ之ヲ述ヘタルカ尚水稻ニ就キ坪刈選定地ハ其何レノ部分ヲ刈取ルヘキヤヲ一言セハ

愈坪刈スヘキ田地ハ定マルモ其ノ何レノ部分ヲ刈取ルヘキヤヲ研究セサル可カラス何トナレハ畦ノ附近ハ空氣ノ流通ヨク光線モ能ク當ルヲ以テ中央ニ比スレハ幾分良好ノ成熟ヲ見ルヘシ殊ニ東西南ノ三面ヲ然リトス之ニ反シ中央部ハ最モ成熟ノ不良ナルヲ常トス故ニ畦ノ附近ハ平均以上ニシテ中央ハ平均以下ノ作柄ナルヘシ依テ中央ニモアラス畦ノ附近ニモアラス眞ニ平均ヲ得ヘキ部分ヲ選ミ刈取ルコトニ注意セサル可カラス

麥坪刈方法

麥ノ坪刈方法トシテハ陸稻坪刈ノ方法ニヨルモノトス

第十章　統計表記載方ノ注意

統計表ハ記載方ノ巧拙ニヨリ通覽ニ便否ノ差アルノミナラス甚シク拙劣ナルモノニ至リテハ往々見誤リヲ生セシムルモノナレハ統計表ヲ記スルニ至リテハ左ノ數点ニ於テ特ニ注意セサルヘカラス

(一)統計ニ記載スヘキ數字ハ常ニ一二三等ノ字ヲ用ヒ壹貳參等ノ字ヲ用ユヘカラス又十ハ一〇、百ハ一〇〇〇ト記載スヘキモノトス

(二)數位ノ点ハ普通千位萬位ト三字毎ニ之ヲ附スモノトス又整數ト小數トノ間ニハ●ヲ附スモノトス

(三)數字ノ排列ハ數字ノ大サヲ一定シ百位ノ數ハ千位ノ數ヨリ一字低ク、又千位ノ數ハ萬位ヨリ一字低キ樣ニ記スヘシ

例ヘハ

千二百三十四箇五分六厘ハ	一、二三四●五六
九百八十七箇六分八厘ハ	九八七●六八
二十七箇二分八厘ハ	二七●二八
八分九厘ハ	●八九

(四)單位ノ明記、單ニ數字ヲ記載シタルモノヽミニテ單位ヲ明カニセサレハ如何ナル數量ナルヤヲ知ルヘカラサルニヨリ數字ニハ必ス單位ヲ明記セサルヘカラス

例ヘハ

千二百三十四圓五十八錢六厘ハ	一、二三四、五八六円
六千八百九十二石ハ	六、八九二石
八十二町六反ハ	八二、六反

(五)記載事項皆無又ハ未詳ノ時ノ欄内記入方ニ就テハ實際事實ナキ場合ハ「—」(小ナルヲ可トス)ヲ附シ未詳又ハ不詳ノ場合ニハ「〇」ヲ附スヘキモノトス

(六)統計ニ於テ小數ヲ切捨ツル場合ニハ通常四捨五入ヲ以テ計算セリ例ヘハ麥ノ作付反別五十八町六反五畝十八歩ナルトキニ於テ反止メトナストキハ五十八町七反ト計算シ或ハ二十六町五反四畝十六歩ナルトキハ二十六町五反切捨ツルカ如シ

(七)統計表中自家用生産品ト雖モ調査ヲ要セサル旨特ニ記載ナキモノハ之ヲ調査スルモノトス

價格計算方ニ就キ特ニ其方法ヲ記載セサルモノハ一般卸賣相場ヲ以テ計算スヘシ單價ノ算出モ亦同シ

但物品ノ種類ニヨリ又ハ地方ノ情況ニヨリ問屋ノ設備ナキ場合ニ於テハ生産者ヨリ仲買人ニ賣渡ス相場ヲ以テ計算スルモ差支ナシ

一、一斤ハ百六十匁ヲ以テ計算スヘシ

一、製造戸數ノ調査ハ工場ヲモ一戸トシテ計算スヘシ

一、職工ノ調査ハ戸主又ハ家族ト雖モ事實作業ニ從事スルモノハ之ヲ計算スヘシ

一、諸表中記載シアル外國度量衡ヲ本邦ノ度量衡ニ換算スレハ左ノ如シ

哩(マイル)	一四●四五(町)	鎖(チェン)	六六●二八(尺)

碼（ヤード）（ヤールト稱ス）　三・一七四五尺
米（メートル）　三・三尺
噸　二七〇・九五三貫
オンス　七・五六匁
封度（ポンド）　一二〇・九六匁
打（ダース）（ダースト稱ス）　一二箇

臨時報告

風水害及霜、雹、旱害等ノ農業上ノ災害ニ關シテハ左記樣式ニ依リ報告スヘキモノトス

但シ水害及霜害ニ關シテハ其被害ノ程度調査ヲ了シタルトキハ被害地ヲ左ノ色別ニシタル略圖調製ノ上添付ヲ要ス

水害ノ塲合　青色（被害激甚ナル地方ハ特ニ濃色トス）

霜害ノ塲合　赤色（同上）

甲號　電報（電話）報告（緊急ノ塲合）田、桑園、桑園以外ノ畑別被害（水害ノ塲合ニハ浸水トス）

面積（反ヲ單位トス）被害地方（何大字又ハ何川沿岸等）被害主要農產物ノ損害見込額（但シ推定シ得ル塲合ニ限リ報告ノコト）

乙號樣式ノ一　農作物被害調（概數ノ稍明トナリタル時期ニ於テ）

糎（ミリメートル）　〇・〇〇三三尺
利（リットル）　〇・五五四三五升
担（ピコル）　一六・一二八貫
瓦（グラム）　〇・二六六六七匁
哥（グロッス）　一四四箇

種別	田 被害面積 反	田 被害見積高 圓	畑（桑園ヲ除ク） 被害面積 反	畑（桑園ヲ除ク） 被害見積高 圓	桑園 被害面積 反	桑園 被害見積高 圓	合計 被害面積 反	合計 被害見積高 圓
(イ)流失又ハ埋沒シタルモノ								
(ロ)滯水ノ爲メ收穫皆無ノモノ								
(ハ)仝上五割以上減收ノモノ								
(ニ)仝上三割以上五割未滿減收ノモノ								
(ホ)仝上三割未滿減收ノモノ								
合計								

備考

一、霜、雹、風旱等ノ害ニ關シテハ前表中イ「流水又ハ埋沒シタルモノ」ノ十一字「滯水ノ爲メ」ノ四字竝ハ（ニホノ仝上ノ二字ヲ除キロハホヲ順次繰上ク）

二、風害、旱害等ノ如ク被害程度明ナラスシテ本表上段ノ樣式ニ依リ區分シ難キモノニアリテハ適宜上段ノ樣式ヲ定メ報告スルモ妨ナシ

三、損害見積高ノ算出方法ヲ記ヘスシ

（例）　被害前ノ一反歩當リ收穫高

米（麥）　石

桑　貫

單位價格　圓　錢

何々

乙號樣式ノ二　養蠶被害調（概數ノ稍明トナリタル時期ニ於テ）

種別	被害前ノ豫想高 數量	被害前ノ豫想高 價額	被害見積高 數量	被害見積高 價額	備考
春（夏）（秋）蠶	石	圓	石	圓	一石ノ價
天（柞）蠶					仝

丙號樣式ノ一　農作付被害調（調査ノ充分出來タル時期ニ於テ）

種別	被害總面積	仝上被害前ノ見積收穫高 數量	仝上被害前ノ見積收穫高 價額	損害見積高 數量	損害見積高 價額	備考
流失又ハ埋沒シタルモノ	反	石	圓	石	圓	一反歩ニ付收穫石合 一石ニ付價格円錢
滯水ノ爲メ收穫皆無ノモノ						仝 仝
計						
水稻						仝 仝
陸稻						仝 仝 仝 仝
粟						仝 仝

段別	葉桔凋セルモノ	枝條ノ枯死セルモノ	全株ノ枯死セルモノ	計
	反	反	反	反

丙號樣式ノ二　桑園被害調（調査ノ充分出來タル時期ニ於テ）

蕎麥	仝
麥	仝
大豆	仝
小豆	仝
稗	仝
其他	仝
合計	

備考

一、霜、雹、風旱等ノ害ニ關シテハ本表第一行中「流失又ハ埋沒シタルモノ」ノ一行同第二行中「滯水ノ爲」ノ四字及計ノ二行ヲ除ク

二、作物ノ種類ハ本表ニ記載ノ外特ニ其ノ地方ニ重要ナルモノヲ記シ其ノ他ハ「其他」中ニ合算シ其ノ品種名ヲ說明スヘシ

數量	價格
貫	圓
貫	圓
貫	圓
貫	圓
貫	圓

丙號樣式ノ三　養蠶被害調　（調査ノ充分出來タル時期ニ於テ）

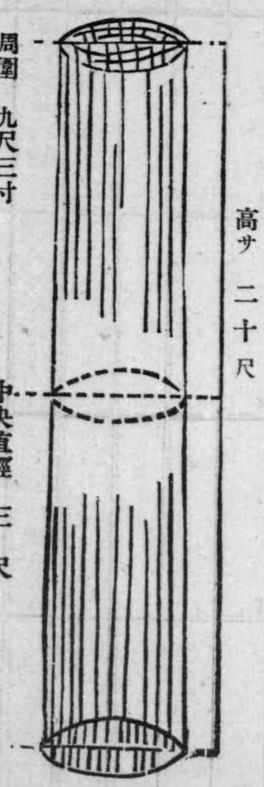
種別	被害前ノ豫想高			被害減少額		備考
	數量	價格		數量	價格	
秋蠶	石	圓		石	圓	一石ノ價

一、用材ノ材積計算法

用材ノ材積單位ハ尺角長サ十尺ニ相當スルモノ即チ實積十立方尺ヲ以テ一石トス

（一）伐採シタル幹材積計算法

左ノ如キ周圍九尺三寸高サ二十尺ノ材積ヲ知ラント欲セバ



高サ　二十尺

（算法）

一、直徑ノ算出法ハ初メニ周圍ノ九尺三寸ヲ見其ノ周圍ヲ圓周率即チ三、一四一六ニテ除シタルモノ

二、材積算出ノ法　中央直徑ノ三尺ニ自乘シ圓積率〇、七八五四ヲ乘シ其ノ上長サノ二十尺ヲ乘シ十立方尺（一石）ニテ除シテ得タル數ハ其ノ材積ナリ

周圍ノ尺　9尺3寸 ÷ 圓周率 3.1416 = 3尺　中央直徑

中央直徑　3尺 × 3尺 × 圓積率 0.7854 × 長サ 20尺 = 14.1372 立方尺

答　十四石、一三七二　10 石

二、立木材積計算法　（形數式法）

立木材積ノ計算法ハ左表ニ示ス所ノ形數ヲ用フルトキハ實用上便利ニシテ容易ニ算出スルヲ得ヘシ

形數トハ想像圓柱体ニ比較シタル樹木体積ノ割合ニシテ樹齢、樹種、地位等ノ異ナルニ從ヒ一定セサルモノナリ此ノ算法ニモ種々アレトモ左ノ形數表ハ實用上便利ナルモノトス

左ノ如キ立木ノ材積ヲ知ラント欲セハ

圓柱体

（算法）

一、目通直徑算出法ハ前述ノ通リ

二、材積計算法

目通直徑ノ二尺ヲ自乗シ之ニ圓積率〇、七八五四ヲ乗シ之ニ高サ三十尺ヲ乗シ更ニ形數〇、五五ヲ乗シ之ヲ十立方尺ニテ除シテ得タル數ハ其積ナリ

周圍ノ尺ヲ÷3.1416＝2尺　目通直徑

目通直徑　圓積率　高サ　形數

2尺×2尺×0.7854×30尺×0.55＝5.18364石

10立方尺

答　五石、一八三六四

形數表

高サ 間	形數	高サ 間	形數	高サ 間	形數	高サ 間	形數
3.0	0.60	8.0	0.51	13.0	0.49	18.0	0.46
3.5	0.57	8.5	0.51	13.5	0.48	18.5	0.46
4.0	0.56	9.0	0.50	14.0	0.48	19.0	0.46
4.5	0.55	9.5	0.50	14.5	0.48	19.5	0.45
5.0	0.55	10.0	0.50	15.0	0.47	20.0	0.45

5.5	0.54	10.5	0.50	15.5	0.47	20.5	0.44
6.0	0.54	11.0	0.49	16.0	0.47	21.0	0.44
6.5	0.53	11.5	0.49	16.5	0.47	21.5	0.43
7.0	0.53	12.0	0.49	17.0	0.47	22.0	0.42
7.5	0.53	12.5	0.49	17.5	0.46	22.5	0.41

備考　本表ハ松、杉、樅、扁柏、蝦夷松、檜等數種ノ形數ヲ平均シタモルノナリ

一、薪炭材ノ材積計算法

薪炭ノ材積單位ハ長サ二尺ノモノヲ高サ五尺幅十尺ニ積立テタルモノ即チ層積百立方尺ヲ以テ一棚トス

(一)石數ヲ棚ニ換算法

薪炭材ノ一棚ノ層積百立方尺ニハ間隙アルヲ以テ其實積ハ三割ヲ減シ即チ七十立方尺アルモルト看做スヘキモノヲ以テ一棚ノ用材ハ七石（一石十立方尺）ニ相當スルモノトス故ニ或ル薪炭材ノ石數ヲ以テ計算セシモノハ七石ヲ以テ除スレハ棚數ヲ得ルモノトス例ヘハ茲ニ二千百石ノ薪炭アリトシ之ヲ棚數ニ換算センニハ二千百石ヲ七石ニテ除シ得タル三〇〇〇即チ棚數ナリ

(二)貫數ヲ棚ニ換算法

或ル薪炭材ノ重量ヲ以テ計算セシモノハ左記下段ノ重量ヲ以テ一棚トシ換算スヘキモノトス

樹種	一立方尺ノ重量	一棚ノ重量
松	三、一一〇—五、五〇〇貫	二一八、—三八五、貫
櫧（カシ）	四、二〇〇—七、八四〇	二九四、—五四九、

露光量違いの為重複撮影

櫟（クヌギ）	六、三〇〇—六、六六〇	四四一、—四六六、
楢（ナラ）	五、一〇〇—六、八一〇	三五七、—四七七、
楓（カイデ）類	四、五九〇—六、二九〇	三二一、—四四〇、
櫻	四、四五〇—六、二六〇	三一二、—四三八、

（備　考）

右一立方尺ノ重量ハ空氣中ニ放置セラレテ自然ニ乾燥セル木材即チ通常ノ有樣ニ於ケル木材ノ重量ナリ

（三）竹ノ材積計算法

竹材一束ハ三尺繩ニテ結束シタルモノヲ長短ニ不拘一束ト計算スヘシ

（四）養蠶ノ調査期

一、春蠶ハ其年六月三十日ニ上簇シタルモノ

二、夏蠶ハ其年七月一日ヨリ八月十日迄ニ上簇シタルモノ

三、秋蠶ハ其年八月十一日以降ニ上簇シタルモノ

露光量違いの為重複撮影

農商工統計様式

柴	六、六六	四四、、四六六、
板	六、八一	三五七、四七七、
竹	六、三九	三三一、四四一、
樹	六、三六	三三三、四三八、

（備考）

（一）立方尺ノ重量ハ窯炭中ニ炭焼セラレタル自然ニ乾燥セル木材即チ通常ノ有様ニ於テル木材ノ重量ナリ

（三）竹ノ材積計算法

竹材一束ノ長サ五尺以上ニシテ其長サニ本持一束ト計算スベシ

（四）差繰ノ調書例

一、春繰ハ其年六月二十日ニ上繰シタルモノ

二、夏繰ハ其年七月二十日ニ上繰シタルモノ

三、秋繰ハ其年八月十一日以降ニ上繰シタルモノ

報告期限類集

番號	表名	調査委員報告期限	町村役場報告期限
第三	食用及特用農產物	翌年 一月五日	翌年 一月十五日
第四	果實	仝 一月五日	仝 一月十五日
第一二	蠶絲類及眞綿	仝 一月五日	仝 一月十五日
第一四	家畜	仝 一月二十日	仝 一月末日
第一五	乳牛	仝 一月二十日	仝 一月末日
第一七	屠殺	仝 一月二十日	仝 一月末日
第一九	會社	仝 一月二十日	仝 一月末日
第五五	工場	仝 一月二十日	仝 一月末日
第五七	石類	仝 一月二十日	仝 一月末日
第五八	土石雜類定期調査	仝 一月二十日	仝 一月末日
第五九	漁業戶數及漁業者	仝 一月二十日	仝 一月末日
第六〇	漁船	仝 一月二十日	仝 一月末日

第六一	難破漁船	翌年一月二十日	仝	翌年一月末日	仝
第六二	漁獲物	仝一月二十日	仝	一月末日	仝
第六三	水產製造物	仝一月二十日	仝	一月末日	仝
第六四	水產養殖	仝一月二十日	仝	一月末日	仝
第二七	煉瓦、瓦及土管	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第二八	漆器	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第二九	疊表、莫蓙及花莚	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第三一	漆器	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第三二	油類	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第四〇	機械製麥粉	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第四五	釀造	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第五四	各種工產物	仝二月三十日	仝	二月末日	仝
第六六	民有林野面積定期調查	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第六七	學校林定期調查	仝二月二十日	仝	二月末日	仝

第六八	民有林野開墾	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第六九	造林用苗木	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第七二	民有林野被害	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第七三	民有林伐採	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第七四	林野產物	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第七五	林野產物定期調查	仝二月二十日	仝	二月末日	仝
第七〇	民有林野人工造林	仝三月二十日	仝	三月末日	仝
第七一	民有林野天然造林	仝三月二十日	仝	三月末日	仝
第七七	諸作物被害及損耗高	仝三月二十日	仝	三月末日	仝
第七八	河岸出入船舶	仝三月二十日	仝	三月末日	仝
第七九	河岸輸出入物貨物	仝三月二十日	仝	三月末日	仝
	麥收穫高豫想	其年五月十日	其年	五月二十日	仝
	春蠶景況及收穫高豫想	仝五月十五日	仝	五月廿五日	仝
第二	麥	仝七月五日	仝	七月十五日	仝

第六 苗木	其年 七月五日	其年 七月十五日
第七 桑畑及茶畑	仝 七月五日	仝 七月十五日
第八 春蠶	仝 七月五日	仝 七月十五日
第一六 家禽	仝 七月二十日	仝 七月末日
第五 綠肥用作物	仝 七月二十日	仝 七月末日
第一回米作收穫高豫想	仝二百十日一週間前	仝二百十日一週間前
秋蠶景況及收繭高豫想	仝 八月十五日	仝 八月廿五日
第一三 製茶	仝 九月二十日	仝 九月末日
第二回米作收穫高豫想	仝 秋分ノ景況	仝 秋分ノ景況
第九 夏蠶	仝 十一月五日	仝 十一月十五日
第一〇 秋蠶	仝 十一月五日	仝 十一月十五日
第一一 養蠶戶數	仝 十一月五日	仝 十一月十五日
第一一 米	仝 十一月三十日	仝 十二月十日

第三食用及特用農產物

（報告期町村ハ翌年一月十五日郡市ハ翌年一月末日限）

大正何年

	作付段別	收穫高	一段歩收穫高	價額	單位價格	備考
大豆	段	石	石	圓	錢	
小豆						
豌豆						
蠶豆						
菜豆（インゲン）						
大角豆						
落花生	（莢ノ儘計算ス）					
粟						
稗						
黍						
蕎麥						

玉蜀黍	胡麻	甘藷	馬鈴薯	蒟蒻芋	青芋（サトイモ）	食用百合		漬菜	甘藍（キャベージ）	羅蔔	蕪菁	胡蘿蔔	葱	牛蒡	蓮根	慈姑	筍	胡瓜	白瓜
		貫	貫			生百合	乾百合												
						（生百合ノ全部ノ貫匁ヲ掲ク後乾百合ヲ掲ク）													

乾薑	段	貫	貫	圓	錢	（リヤヲ記入スヘシ）		
花百合		（球根ヲ計算スヘシ）	箇					
除蟲菊		（花ヲ乾燥シタルモノ）	貫					
人參		（乾燥シタルモノ）	斤					
菜種 畑作			石					
菜種 田作								
薄荷		（乾燥シタルモノ）	貫					
絲瓜		（皮肉ヲ去リ乾燥シタルモノ（但シ食用ヲ除ク））	箇					
實棉		（乾燥シタルモノ）	貫					
大麻 皮ヲ乾燥シタルモノ		（百合ト同シ）						
大麻 製麻								
苧麻（刺美ヲ含ム）	段	（製麻ヲ記入スヘシ）						
亞麻		（莖ヲ乾燥シタルモノ）						
黃麻		（皮ヲ乾燥シタルモノ）						

（皮ヲ乾燥シタルモノ百貫ヨリ得ラルヘキ製麻何貫ナリヤヲ記入スヘシ）

葉藍		（乾燥シタルモノ）						
櫨								
楮		（皮ヲ乾燥シタルモノ）						
三椏		（皮ヲ乾燥シタルモノ）						
杞柳		（乾燥シタルモノ）						
藺（備後其ノ他ノ丸藺）		（乾燥シタルモノ）						
芋莫（七嶋其ノ他ノ三角藺）		（乾燥シタルモノ）						
桑葉								
茶葉								
計								

（其年中ニ收穫セシ葉ノ貫數及反別ヲ調査スルコト）

（注意）

一 本表ハ收穫ノ目的ヲ以テ栽培シタルモノニ限リ調査スヘシ

一 混作、間作又ハ畦畔等ニ栽培シタルモノハ總テ見積段別ヲ記入スヘシ

一 生百合ノ欄ニハ總收穫高及作付段別ヲ記入スヘシ

一 乾百合ハ原料カ他地方ノ產出ニ係ルモノト雖モ之ヲ調査スヘシ但シ海外ヨリノ輸入又ハ移入ニ係ル原料ヲ用ヰタルモノハ之ヲ除ク

一　生薑、大麻（皮ヲ乾燥シタルモノ）ノ欄ニハ總收穫高及作付段別ヲ記入スヘシ
一　乾薑、製麻（大麻苧麻トモ）ハ原料カ他地方ノ產出ニ係ルモノト雖モ之ヲ調査スヘシ但シ海外ヨリノ輸入又ハ移入ニ係ル原料ヲ用ヰタルモノハ之ヲ除ク
一　櫨ハ第七四號表ト重複セサル樣調査スヘシ

第四　果實

（報告期　町村ハ翌年一月十五日　郡市ハ翌年一月末日限）　　大正何年

	樹數	收穫高	一本ニ付收穫高	價額	單位價格	備考
	本	石	石	圓	錢	
梅						
桃		貫	貫			
櫻桃						
李		石	石			
梨　日本梨		貫	貫			
梨　西洋梨						
柿　生柿						
柿　乾柿						（生柿百貫ヨリ得ラルヘキ乾柿何貫ナリヤヲ記入スヘシ）
苹果						
枇杷						
葡萄						
栗		石	石			
無花果		貫	貫			
蜜柑（温州紀州ノ類）						
ネーブルオレンジ						
夏橙						
其ノ他柑橘類						
計						

（注意）
一　本表ハ收穫ノ目的ヲ以テ栽培シタルモノニ限リ調査スヘシ
一　樹數ハ實際ニ結實ノ年齡ニ達シタルモノノミヲ調査スヘシ
一　生柿ノ欄ニハ食用ト澁用トヲ問ハズ總收穫高及樹數ヲ記入スヘシ
一　乾柿ハ原料カ他地方ノ產出ニ係ルモノト雖之ヲ調査スヘシ
一　栗ハ第七四號表ト重複セサル樣調査スヘシ

第一二　蠶絲類及眞綿

（報告期町村ハ翌年一月十五日郡市ハ翌年一月末日限）　大正何年

	製造戸數						繰絲釜數	生絲			屑物			
	十釜未滿	十釜以上五十釜未滿	五十釜以上百釜未滿	百釜以上	計				數量	價額	一貫ニ付價格	熨斗絲	生皮苧	其ノ他	計
									貫	圓	錢				
器械絲									貫	圓	錢				
座繰絲									貫	圓	錢				
玉絲									貫	圓	錢				
計									貫	圓	錢				

	製造戸數	眞綿	各計
	數	數量	價額
		貫	圓
器械絲			
座繰絲			
玉絲			
計			

（注意）

一　製造戸數ハ其ノ年執業シタル戸數ヲ記入スヘシ

一　器械製絲場ニシテ座繰ヲ兼ネ又ハ座繰製絲場ニシテ玉絲製絲ヲ兼ヌル如キモノノ戸數ハ之ヲ其ノ主ナル部ニ算入シ其ノ旨ヲ備考トシテ記入シ製絲ハ器械、座繰、玉絲ノ三種ニ分チ各其ノ部ニ算入スヘシ

一　生皮苧トハ繰絲ニ際シ繭ヨリ手繰リ取リタル緒絲ヲ謂ヒ熨斗絲トハ生皮苧ヲ引延シタルモノヲ謂フ

一　其ノ他トハ揚リ繭蛹襯及練綿ノ總稱ナリ

第一四　家畜

（報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年十二月月末日現在

	牛				頭數					
	計	外種	雜種	內種	牡	牝	計	價額	年內出產	年內斃死
								圓	牡 頭	牡 頭
牡									牝 頭	牝 頭
牝									計 頭	計 頭

馬				豚				緬羊	山羊
内種	雑種	外種	計	内種	雑種	外種	計		
頭									
頭									
頭									
頭									
頭									
頭									
頭									

（注　意）

一　本表ハ中央官廳所有ノモヲ除キ總テ之ヲ調査スヘシ

一　朝鮮牛及支那牛ノ如キハ内種トシテ調査スヘシ

一　本表ニハ乳牛ヲモ記入スヘシ

一　其ノ年中ニ出産シテ死亡シタルモノハ出産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ記入スヘシ

一　獸疫又ハ結核病ニテ死亡シ又ハ撲殺セシモノモ斃死欄ニ記入スヘシ

大正四月四月一日縣訓令甲第十八號追加

一　生産ノ價格計算ハ牛馬ニ就テハ出生後滿六ケ月ノモノヲ調査シ其年七月以後ニ出生シタルモノハ滿六ケ月ノ價格ヲ見積リ羊豚ニ就テハ出生ノ後滿二ケ月ノモノヲ調査シ其年十一月以後ニ出生シタルモノハ滿二ケ月ノ價格ヲ見積リ調査スヘシ但滿六ケ月若ハ滿二ク月前ニ斃死又ハ撲殺シタルモノハ價格ノ計算ヨリ之ヲ除キ其ノ頭數ヲ備考トシテ記入スヘシ

第一五　乳牛

（報告期町村ハ翌年一月末日　郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年十二月末日現在

搾乳戸數	頭數		搾乳高	價額	單位價格
	滿二歳以上	滿二歳未滿			
			石	圓	圓

（注　意）

一　搾乳戸數ハ其ノ年十二月末日現在ヲ記入スヘシ

一　搾乳戸數ハ搾乳場數箇所アル場合ニハ各一戸トシテ計算スヘシ

一　本表ニ乳牛ト稱スルハ明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則ニ依ル牛乳營業者ニ於テ搾乳シ若ハ其ノ目的ヲ以テ飼養スル牝牛ヲ謂フ

一　搾乳ハ一箇年中ノ搾乳高ヲ記入シヘシ

第一六　屠殺

（報告期町村ハ翌年一月末日　郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年

屠場數	頭數			量	價額	
	牝	牡	計	牝	牡	一斤ニ付價格
成牛				斤	斤	圓
犢						圓
馬						圓
豚						錢
緬羊						錢
山羊						

（注意）

一 屠場數ハ其ノ年十二月末日現在ヲ記入スヘシ

一 斤量ハ内臓及毛皮ヲ除キタルモノヲ揚ケ且檢査濟食用ニ適スルモノタルヘシ

一 成牛トハ滿一年以上犢トハ滿一年未滿ノモノヲ謂フ

一 一斤ハハ百六十匁ナルモ慣行ニ依リ百二十匁トシテ計算シタルトキハ其ノ旨ヲ備考トシテ記入スヘシ

第一九 會社

（報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限）

大正何年十二月末日現在

會社ノ種類	會社ノ商號	本店所在郡市町村名	設立年月	會社ノ目的	備考

資本金又ハ資出額		積立金	利益金	配當金（株式會社ニ限リ記入スベシ）		損失金	社債現在額
總額	拂込額			金額	配當率		
圓				割	分	厘	圓

（注意）

一 本表ハ其ノ年ノ十二月末日ニ現在スル會社ヲ記入スヘシ

一 本表ハ一會社毎ニ式ノ通リ記入シ之ヲ一括シテ其ノ總枚數ヲ別紙ニ記載スヘシ

一 會社ノ種類ハ合名會社、合資會社、株式會社、株式合資會社、相互會社ト記入スヘシ

一 支店出張所等ノ數及其ノ所在地ハ之ヲ備考欄ニ記入スヘシ

一 朝鮮、臺灣、樺太、關東州所在ノ會社及外國會社ノ支店ハ本表ニ準シ之ヲ報告スヘシ

一 設立年月ハ登記シタル年月ヲ記入スヘシ但シ登記法施行以前ニ設立シタル會社ニ在リテハ實際ノ設立年月ヲ記入スヘシ

一 合併又ハ分割ニ依リ設立シタル會社ハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

一 會社ノ目的ハ其ノ主タルモノ一ニ付記入スヘシ例ヘハ商工業ニ在リテハ何々賣買又ハ何々製造等ト記入シ農業ニアリテハ開墾、耕作、牧畜等ト記入スルカ如シ

一 數種ノ事業ヲ營ムモノハ一々之ヲ備考欄ニ記入スヘシ

一 拂込資本金又ハ出資額、積立金、社債ハ年末最近ノ決算期ノ現在額ヲ記入スヘシ例ヘハ其ノ年三月ト九月トニ決算アリタルトキハ九月ノ現在額ヲ記入スヘシ

一 利益金、配當金、損失金ハ調査ノ屬スル年ノ最後ノ決算期ヨリ前一箇年間ニ於ケル決算額ヲ通算シテ記入スヘシ

一 積立金ハ法定積立金ノミナラス一切ノ積立金ヲ記入スヘシ

一 社債ハ商法ノ規定ニ依リ社債券ヲ發行シタルモノノ償還未濟額ヲ記入スヘシ

一 鉄道會社ニ在リテハ私設、輕便、軌道ノ別ヲ明ニシ且ツ蒸汽、電氣、馬車、人車等動力ノ種類ヲ備考欄ニ記入スヘシ

一 清算中又ハ破産手續中ノモノハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

一 前年報告後消滅シタル會社ニ付テハ別紙ニ其ノ會社名竝ニ消滅ノ事由ヲ列記報告スヘシ

馬匹市町村別　（町村ハ一月末日限）　大正何年十二月三十一日現在

町村名	五才以上	四才	三才	二才	當才	合計
	牝	牡	騸	計	牝	牡	騸	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計

第五五　工場

（報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限）

大正何年十二月末日現在

工場名稱	工場所在郡市町村名	工場主名	創業年月	主要製品	一箇年間就業日數	一日就業時間	直接作業ニ從事スル者ノ數				職工一人一日ノ賃錢	
							男	女	計		男	女
										十五歲以上	錢	
										十六歲未滿十三歲以上		
										十二歲未滿	錢	
										計		

原動機	機關數	實馬力
蒸氣機關 往復動氣機		
蒸氣機關 蒸氣タービン		
瓦斯發動機		
石油發動機		
西洋形水車 タービン式水車		
西洋形水車 ペルトン式水車		
日本形水車		
電動機 自家發電		
電動機 他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノ		
其ノ他		

勞働人夫ノ數 男	女	石炭消費高	製造高	製品ノ種類	數量	價額	單位價額	備考
			大正何年	何々		圓	錢	
				何々				
				何々				
				何々				
				何々				
				其ノ他				
		斤						

（注意）

一 本表ハ其ノ年十二月末日現在スル工場ヲ記入スヘシ

一 本表ハ一工場毎ニ式ノ通リ記入シ之ヲ一括シ其ノ總枚數ヲ別紙ニ記載スヘシ

一 本表ハ工場所有主ノ會社タルト個人タルトヲ問ハス直接作業ニ從事スル者平均一日五人以上ヲ使用スル工場ヲ記入スヘシ

一 中央官廳直轄工場、中央官廳直轄ノ學校又ハ試驗場等ニ附屬スル工場、監獄内ノ工場ニ付テハ報告ヲ要セス

一 本表ハ工場所在地ノ市町村ヨリ報告スヘシ他府縣他郡市町村所在工場ノ分工場ト雖其ノ管内ニ在ルモノ亦同シ

一 分工場ハ本工場ト區別スル爲メニ分工場ト記入スヘシ

一 分工場ニシテ獨立工場ト認メ得ヘキトキハ一構内ニ在ル場合ト雖各別ニ報告スヘシ之ニ反シ建物若ハ所在地ヲ異ニスト雖附屬ト見做スヘキモノハ本工場ニ合併シテ報告スヘシ

一 就業日數ハ休業日ヲ除キタル一箇年中ノ日數ヲ記入シ一日就業時間ハ平均何時間トシ季節ニ依リ著シキ長短アルモノハ各其ノ季節及其ノ時間ヲ記入スヘシ

一 直接作業ニ從事スル者ノ數ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ但シ或種ノ工業ニシテ一定ノ時季ニノミ作業スルモノニ在リテハ其ノ時季ニ於ケル一日ノ平均數ヲ記入スヘシ

一 直接作業ニ從事スル者ノ數ニハ工場主ヲ合算スヘカラス

一 勞動人夫トハ直接作業ニ從事スル者以外ノ勞動者ヲ謂ヒ其ノ員數ノ計算方亦前項ニ同シ

一 職工ノ賃金ハ普通職工ノ一人一日ノ平均額ヲ記入スヘシ

一 賄、被服等又ハ其ノ代價ヲ給與スルモノニ在リテハ之ヲ賃錢ニ合算スヘシ

一　自家ニ發電機ヲ備ヘ此ノ電氣ヲ用ヰル電動機アルトキハ此ノ電動機ノ臺數竝ニ馬力數及發電機ヲ運轉スル原動機ノ臺數及馬力數ヲ相當欄ニ記入スヘシ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノハ電動機ノ臺數及馬力數ノミヲ相當欄ニ記入スヘシ

一　製品ノ種類ハ成ルヘク細別シテ記入スヘシ

一　數量ノ欄ニハ貫、斤、箇等其ノ單位ヲ記入スヘシ

一　本表ハ明治四十二年十一月農商務省令號五十九號工場統計報告規則ニ依リ調査ヲ行フ年ニ在リテハ鑛業ヲ除クノ外ハ提出スルヲ要セス

第五七　石類

（報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年

	數量	價額	單位價格
花崗岩		圓	錢 切
安山岩			
大理石			
石板石			
砂岩			
凝灰岩			
其ノ他ノ岩石			
計			

（注意）

一　本表ハ土木用、建築用、裝飾用又ハ墓碑、庭園敷石用等ノ石材又碎石ヲ記入スヘシ

一　數量ノ單位ハ地方ノ慣習ニ從フハ隨意ナレトモ同種類ノモノハ同一ノ單位ヲ用フヘシ

一　自家用原料トシテ採取シタル爲其ノ價額不明ノモノハ適宜ノ符號ヲ附シ區別シテ數量ノミ記入スヘシ

一　「其ノ他」ノ欄ニ記入シタルモノニシテ種類明ナルモノハ其ノ名稱ヲ備考トシテ記入スヘシ

第五八　土石雜類定期調査

（報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年

	數量	價額	單位價格
セメント原料	坪	圓	錢
陶磁器原料			
火山灰			
耐火粘土			
砥石	箇		

金剛砂（柘榴石）	斤		圓
磨砂			
寶石（黃玉、水晶、瑪瑙、蛋白石等）			
石灰石			
白雲石			
硯材	切		
蠟石			
明礬石	貫		
硅石（硝子原料ヲ含ム）			
石膏			
重土類			
螢石			
石絨			
其ノ他有用土石			

飲料用鑛泉						
計						

（注意）

一 本表ハ大正四年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後毎五年ニ調査報告スヘシ

一 數量ノ單位ハ地方ノ慣習ニ從フハ隨意ナレトモ同種類ノモノハ同一ノ單位ヲ用フヘシ

一 自家用原料トシテ採取シタルタメ其ノ價額不明ノモノアラハ適宜ノ符號ヲ附シ區別シテ數量ノミヲ記入スヘシ

一 「其ノ他」ノ欄ニ記入シタルモノニシテ種類明ナルモノハ其ノ名稱ヲ備考トシテ記入スヘシ

第五九 漁業戸數及漁業者（報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限） 大正何年十二月末日現在

	本業	副業	計
戸數			
漁業者 男			
漁業者 女			
漁業者 計			

（注意）

一　戸數トハ戸籍上一戸ヲ爲スモノト否トヲ問ハス獨立ノ一所帶ヲ爲シ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ營ム者ノ總數ヲ謂フ

一　漁業者トハ業務主又ハ滿十四年以上ノ被用者ニシテ實際漁業ニ從事スル者ヲ謂フ

一　本業トハ主トシテ漁業ニ從事スルモノヲ謂ヒ副業トハ他ノ業務ノ傍ラ漁業ヲ營ムモノヲ謂フ

第六〇　漁船

（報告期　町村ハ翌年一月末日　郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年

| | | 新造船 | | |

漂流			行先不明			顚覆			其ノ他		

計											

（注意）

一 本表ハ船籍所在ノ市町村ヨリ報告スヘシ

一 本表ニハ海岸等ニ繫留シアルモノノ難破ヲ含マス

一 暴風雨海嘯等アリテ遭難船多カリシ場合ニハ之ヲ備考トシテ記入スヘシ

第六二 漁獲物ノ一 （報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限） 大正何年

魚	數量	價額	單位價格
鰊	貫	圓	錢
眞鰯			
脊黑鰯（セロイワシ）（ヒシコ）			
鰹			
鯖			
鮪			

| 類 | | |

| 類 | | |

一　何方ニテ漁獲セシヲ問ハス其ノ市町村所屬漁民ノ捕獲シタルモノハ總テ之ヲ調査スヘシ

漁獲物ノ二

	數	量	價額	單位價格
鮭				
鱒（アメノウヲ（鱒）ヲ含ム）		貫	圓	錢
鯉				
鰻				
泥鰌				
鯰				
鮎				
鰤				
公魚				
白魚				
蜆				

	數	量	價額	一貫ニ付價格
鰕				
其他 魚類				
介類				
水産動物				
眞珠 裝飾用		個		
眞珠 藥用		匁		
計				

（注意）

一　本表ハ何方ニテ漁獵セシヲ問ハス其ノ市町村所屬漁民ノ捕獲シタルモノハ總テ之ヲ調査スヘシ

第六三　水産製造物　（報告期町村ハ翌年一月末日郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年

	數	量	價額	一貫ニ付價格
食節 鰹節		貫	圓	錢
鮪節				
類其ノ他				

食料

計	甲付鰕（甲付イカ）	一番鰕（ケンサキスルメイカ）	二番鰕（スルメイカ）	鱶（フカ）	身鯡（ミカキ）鰊（ニシン）	鰊（カズノコ）ノ鮠（コ）	田作	鱈	公魚	白魚	其ノ他	計	眞鰯
貫													
圓													
錢													

食料

背黑鰯	鰺（アジ）	文鰯（トビノウオ）	秋刀魚（サマ）	鯖（サバ）	舒（カマス）	鰤（ブリ）	鱈（タラ）	鰰（シビラ）	鯛（タヒ）	其ノ他	計	眞鰯	背黑鰯

海參	貝柱	鮑	淡菜	蝶	公魚	白魚	蝦	其ノ他	計	鮭	鱒	鰊	其ノ他	計
乾										燻				乾
貫														
匁														
錢														

眞鰒	背黑鰒	鯖	鮪	鰤	鮭	鱒	鱈	鰊	鯨	其ノ他	計	鹿海苔	計
鹽										製			

食料							肥料							
合計	雜類						搾粕				雜料			
	計	其ノ他	煮佃				計	其ノ他	鰮	鰊	鰊ノ鰯	笹目	胴鰊	干鰯
			魚類	貝類	蝦									
貫														
圓														
錢														

料														
合計	類		魚油					油					漉海苔	總計
	計	其ノ他	鰮油	鰊油	鯨油	其ノ他	計							

（注意）

一 本表ハ他ヨリ原料ヲ仕入レテ製造セシモノト漁夫自ラ製造セシモノトヲ問ハス總テノ製造物ヲ調査スヘシ

一 製造期ノ翌年ニ跨ルモノハ前年製造初期ヨリ其ノ年製造終期ニ至ルマテノモノヲ記入スヘシ例ヘハ漉海苔ノ如キハ普通十一月ヨリ翌年四月迄ヲ製造期トスルヲ以テ本表ニハ其ノ期間ノ製造ニ係ルモノヲ記入スルカ如シ

第六四　水産養殖　（報告期　町村ハ翌年一月末日　郡市ハ翌年二月末日限）　大正何年

	養殖場數	養殖場面積	收獲高		
			數量	價額	一貫ニ付價格
		坪	貫	圓	錢
公共ノ用ニ供スル水面					
鯉					
鰌（鯰ヲ含ム）					
鱧					
鰻					
鰕（ボラ）					
牡蠣					
灰貝					
蛭（アケマキ）					
蜊					
紫菜（アマノリ）					
其ノ他					

	養殖場數	養殖場面積	收獲高		
			數量	價額	一貫ニ付價格
		坪	貫	圓	錢
公共ノ用ニ供セサル水面					
鯉					
稻田					
池沼其ノ他					
鰌（鯰ヲ含ム）					
鱧					
鰻					
鯔					
其ノ他					
計					
合計					

（注意）

一　養殖場數及養殖場面積ハ其ノ年十二月末日現在ヲ記入スヘシ

一　二種以上ヲ混養スルモノハ養殖場數及面積ハ主ナル一方ニ記入シ收獲高ハ之ヲ區別シ相當欄ニ記入スヘシ養殖種類外ノ收獲物ハ記入ヲ要セス

一　公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ハ公共ノ用ニ供スル水面トシテ調査スヘシ

一 公共ノ用ニ供スル水面ノ養殖場ハ漁業法ノ免許ニ依ルモノヲ調査スヘシ
一 貝類ハ殻附ノマヽ計算スヘシ

第二七 煉瓦、瓦及土管

（報告期 町村ハ翌年二月末日 郡市ハ翌年三月末日限） 大正何年

		製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	價額	
煉瓦						箇	圓	錢
瓦	耐火							
	張附							
	普通							
	其ノ他							
	計							
土管								

瓦	屋根瓦							
	其ノ他							
	計							
土管								

（注意）
一 製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ
一 煉瓦、瓦又ハ土管ヲ併セ製造スルモノハ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ記入シ數量及價額ハ之ヲ區別シテ各相當欄ニ記入スヘシ

第二八 漆器

（報告期 町村ハ翌年二月末日 郡市ハ翌年三月末日限） 大正何年

	製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	價額

| | | |

瀬濕（枝搔）							
雜液							
計							

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ年八月末日現在ヲ記入スヘシ

一 本表ハ製造所カ搔取人若ハ仲買人ヨリ買取リタルモノ悉皆ヲ調査スヘシ

一 搔取人自身カ製造スル場合ニ於テモ之ヲ調査スヘシ

第三二 油類

（報告期 町村ハ翌年二月末日 郡市ハ翌年三月末日限）

大正何年

製造戸數	職工 男	職工 女	職工 計	數量	價額	單位價格
				石	圓	錢
菜種油						

脂肪	胡麻油												
	荏油												
	綿實油												
	亞麻仁油												
	椿油												
	桐油												
	櫨油												
	大豆油												
	落花生油												
	椰子油												
	其ノ他												
	計												
揮油	松根油												
	松精油												

發油					
クロモジ油					
コブシ油					
計					
菜種油粕					
大豆油粕					

（注意）

一　製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一　其ノ他ノ欄ニハ植物性脂肪油ニ限リ記入スヘシ

第四〇　機械製麥粉

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）　大正何年

製造戸數	原料需要高				製造高		
	內國		外國		內國		外國
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	一斤ニ付價格
	石	圓	石	圓	斤	圓	錢

（注意）

一　製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在ヲ記入スヘシ

一　手挽ニ非サラルモノハ悉皆調査スヘシ

第四五　釀造

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）　大正何年

	製造戸數			數量	價額	單位價格
	職工					
	男	女	計			
葡萄酒				石	圓	錢
酢						
味噌				貫		

（注意）

一　製造戸數ハ其ノ年十二月末日現在、職工ハ平均一日使用數ヲ記入スヘシ

一　本表ハ販賣ノ目的ヲ以テ釀造シタルモノニ限リ調査スヘシ

第五四　各種工產物

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）　大正何年

	製造戸數			數量	價額	單位價格
	職工					
	男	女	計			
七寶						
銅器、青銅器及眞鍮器						
鐵製鍋釜及鐵瓶類						錢

| 刄物類 | | |

| | 土地臺帳面積 | | |

第六八　民有林野開墾

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）　　大正何年

	田	畑	宅地	焼畑切替畑	其ノ他形質變更	計
	箇所面積	箇所面積	箇所面積	箇所面積	箇所面積	箇所面積
	段	段	段	段	段	段
公有						
社寺有						
私有						
計						

（注意）

一　本表ハ總テ其ノ年中ニ開墾シタルモノノミヲ調査スヘシ

第六九　造林用苗木

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）　　大正何年十二月末日現在

	郡市町村部落	苗圃面積	杉	苗	扁柏	落葉松	花柏	羅漢柏	樟	櫧	櫟	栗	楪	其ノ他	計
		坪	千本	千本											
		坪	千本	千本											
		坪	千本	千本											
		坪	千本	千本											
		坪	千本	千本											
		坪	千本	千本											
	林組合	坪	千本	千本											
	其ノ他團體	坪	千本	千本											
	苗木商	坪	千本	千本											
	個人	坪	千本	千本											
	計	坪	千本	千本											

（注意）

一　苗圃面積ハ現在苗木養成ノ爲メニ使用スル總テヲ調査スヘシ

一　苗木ハ一年生以上ノモノヲ調査スヘシ

一　苗木ノ本數ハ千本ヲ以テ單位トス

一　營利會社ノ分ハ苗木商欄ニ合算スヘシ
一　苗木商人數ハ特ニ備考トシテ記入スヘシ

第七二　民有林野被害

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）

大正何年

被害	立木地	無立木地	計	被害價額
面積	段	段	段	圓
公有 風害				
公有 病蟲害				
公有 火災 放火				
公有 火災 失火				
公有 火災 其ノ他				
公有 火災 計				
公有 合計				
社有 風害				
社有 病蟲害				
社有 火災 放火				

寺有 火災 失火	寺有 火災 其ノ他	寺有 火災 計	寺有 合計	私有 風害	私有 病蟲害	公有 火災 放火	公有 火災 失火	公有 火災 其ノ他	公有 火災 計	公有 合計	總計				

（注意）

一　本表ハ被害面積一町歩以上ノモノニ限リ調査スヘシ
一　被害價額ハ實際ニ亡失シタルモノヲ計算スヘシ

一 價額ハ総テ山元相場（立木賣渡價額）ニ依リ計算スヘシ

一 本様式ニ定ムルモノノ外顕著ナル被害アリタルトキハ備考トシテ記入スヘシ

第七三 民有林伐採

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）

大正何年

用	公有			社寺有			私有		
	面積	材積	價額	面積	材積	價額	面積	材積	價額
		石	圓		石	圓		石	圓
針葉 杉									
扁柏									
松									
落葉松									
花柏									
羅漢柏									
姫小松、五葉松、朝鮮松									
椚、白檜、唐檜									
栂、椹									

材	計	其ノ他	檜	柏	櫟	樟	蝦夷松、椴松	金松、羅漢松	檜柏、水松	其ノ他	計	黄楊	鹽地、刺桐、櫛	槭樹、七葉樹	厚朴	桂	苦櫪木
濶葉樹																	
	段										段						
	段										段						

| 薪 | 合 | 用材 | | |

サ二尺ノモノヲ高サ五尺幅十尺ニ積立タルモノ即チ層積百立方尺ヲ以テ一棚トス（此ノ層積ニハ間隙アルヲ以テ其ノ實積ハ三割ヲ減スルモノト看做シ即チ一棚ハ用材ノ七石ニ相當スルモノトス）

一　桐ハ林野以外ノモノヲモ調査シ林野以外ノモノニ付テハ「※」印ヲ附シ別記スヘシ

一　竹ノ材積ハ三尺縄※ニ依リ計算スヘシ

一　其ノ他ノ欄ニ合算セルモノニシテ顯著ナルモノハ其ノ樹種又ハ竹種名ヲ備考トシテ記入スヘシ

第七四　林野産物

（報告期　町村ハ翌年二月末日　郡市ハ翌年三月末日限）　大正何年

		數量	價額	單位價格
用材	角材	石	圓	錢
	挽材	坪		
	計			
薪	松	束		
	檜（ナラ）			
	櫟（クヌギ）			
	其ノ他			
	計			

木炭	白炭	貫	
	黑炭		
	其ノ他		
	計		
樹實	栗	石	
	櫨（ハゼ）、椿（カヤ）、油桐等		
	計		
樹皮	杉	坪	
	檜		
	竹皮	貫	
	計		
雜類	五倍子	斤	
	椎茸（乾燥シタルモノ）		
	松脂		

第七五　林野産物定期調査

（報告期町村ハ翌年二月末日郡市ハ翌年三月末日限）　大正何年

		數量	價額	單位價格
雜類	松煙	斤	圓	錢
	木タール	石		
	醋酸石灰	貫		
	計	一		
合計		一		
林造	杉	升	圓	錢
	扁柏			
	松			
	落葉松			

（注意）

一　本表ハ御料、國有、公有、社寺有、私有林野ニ於ケル總生産額ヲ調査スヘシ

一　櫨及栗ハ第三號及第四號ト重複セサル樣調査スヘシ

用種子	櫟	樟	櫨	其ノ他	計	樹皮	金松	櫻	厚皮櫟	化香樹	黃蘗	鵜木	肉桂	棕櫚	其ノ他
							束							斤	

	計	樟葉	柴草	蔓及莖 藤	蔓及莖 木通	蔓及莖 羊齒	蔓及莖 計	松茸（生ノモノ）	合計
	斤	斤	貫	束				斤	

（注意）

一 本表ハ大正四年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後毎三年ニ調査報告スヘシ

一 本表ハ御料、國有、公有、社寺有、私有林野ニ於ケル総生産額ヲ調査スヘシ

一 本表所定ノ單位ニ依リ難キモノハ地方慣用ノモノニ依リ計算スヘシ但シ其ノ地方慣用ノモノ及本表ノ束ニ付テハ其ノ數量ノ説明ヲ備考トシテ記入スヘシ

第七〇 民有林野人工造林 （報告期町村ハ翌年三月末日郡市ハ翌年四月末日限） 大正何年

新植

公有 郡 面積	公有 郡 數量	公有 市町村 面積	公有 市町村 數量	公有 部落 面積	公有 部落 數量	公有 其ノ他 面積	公有 其ノ他 數量	公有 計 面積	公有 計 數量	社寺有 面積	社寺有 數量	私有 面積	私有 數量	合計 面積	合計 數量	一段歩ニ付數
段	本	段	本	段	本	段	本	段	本	段	本	段	本	段	本	本

針葉樹林 杉	針葉樹林 扁柏（ヒノキ）	針葉樹林 松	針葉樹林 落葉松（カラマツ）	針葉樹林 花柏（サワラ）	針葉樹林 羅漢柏（ヒバ）	針葉樹林 其ノ他	針葉樹林 計	濶葉樹 樟	濶葉樹 櫧	濶葉樹 櫟

補植（數量）

公有	杉	合計	竹林					合計	樹林			
			計	其ノ他	江南竹	淡竹	苦竹		計	其ノ他	櫟	栗
郡市町村部	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
落有	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
其ノ他	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
計	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
社寺有	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
私有	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
合計	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本

針葉樹林							濶葉樹林					
扁柏	松	落葉松	花柏	羅漢柏	其ノ他	計	樟	櫸	欅	栗	櫟	其ノ他	計

合計							

（注意）

一 播種ノ分ハ數量ノミヲ別記シ升ヲ以テ示スヘシ但シ面積ハ植付ノモノニ合算スヘシ

一 混淆植栽ノモノハ各樹種ニ分チ記入スヘシ

一 其ノ他ノ欄ニ合算セルモノニシテ顯著ナルモノハ其ノ樹種又ハ竹種名ヲ備考トシテ記入スヘシ

第七一 民有林野天然造林

（報告期町村ハ翌年三月末日郡市ハ翌年四月末日限）

大正何年

下種、萌芽（面積）

郡市町村部落	公有				社寺有	私有	合計
	針葉樹林	濶葉樹林	針濶混淆樹林	計			
	段	段	段	段	段	段	段

（注意）

一 成林ノ見込確立シタルモノヲ調査スヘシ

第七七 諸作物被害段別及損耗高

（報告期町村ハ翌年三月末日郡市ハ翌年四月末日限）

大正何年

	水害		早害		風害		蟲害		其ノ他		計	
	段	別損耗高	段	別損耗高	段	別損耗高	段	別損耗高	段	別損耗高	段	別損耗高
	段	圓	段	圓	段	圓	段	圓	段	圓	段	圓
水稻												
陸稻												
大麥												
稞麥												
小麥												
大豆												
小豆												
蕎麥												
菜種												
綿												
藍												

煙草	桑	其ノ他	計
段 反			
段 反			
段 反			
段 反			
段 反			
段 反			
段 反			

（注意）

一　本表ハ報告規程第二條ニ依リ臨時報告ヲ爲シタルモノモ總合シテ記入スヘシ

第七八　何河岸出入船舶　（報告期町村ハ翌年三月末日郡市ハ翌年四月末日限）　大正何年

	蒸汽船		西洋形風帆船		日本形商船（積石五十石以上）	
	艘數	噸數	艘數	噸數	艘數	石數
出						
入						

備考

（注意）

一　本表ハ左記ノ河岸所在地ノ町村ニ於テ其ノ年一ケ年間其ノ河岸ニ出入シタル船舶ニ付調査スヘシ
小川河岸、鉾田河岸、大船津河岸、牛堀河岸、土浦河岸、高濱河岸、水海道河岸、宗道河岸、境河岸、取手河岸、野木崎河岸

一　出入船舶ノ調査ハ其ノ河岸カ航行ノ終始地點タルト或ハ航行中寄航シタルトヲ問ハス又定期不定期ノ別ナク總テ航行ノ出入毎ニ調査スルモノトス

一　備考ニハ其ノ船舶出入狀況ヲ記述スヘシ

第七九　何河岸輸出入貨物　（報告期町村ハ翌年三月末日郡市ハ翌年四月末日限）　大正何年

輸出			輸入			計		
數量	元價		數量	元價		數量	元價	摘要
何々	圓		何々	圓			圓	

其ノ他	元價合計	備考
〃	〃	
〃	〃	
〃	〃	
〃	〃	

（注意）

一 本表輸出入貨物ハ左記ノ河岸所在地ノ町村ニ於テ其ノ年一ケ年間般舶ニ依リ輸出入シタル貨物ニ就キ調査スヘシ

小川河岸、鉾田河岸、大船津河岸、牛堀河岸、土浦河岸、高濱河岸、水海道河岸、宗道河岸、境河岸、取手河岸、野木崎河岸

一 本表輸出入貨物ノ品目ハ別記セサルモ其ノ一ケ年間ニ於テ輸出入元價合計一千圓以上ニ達スルモノニ付調査記入スヘシ但シ輸出入元價一千圓ニ滿タサルモノハ其ノ元價ヲ合算シテ其ノ他ノ欄ニ記入スヘシ

一 輸出入貨物ノ數量ハ各貨物ニ添付スル送狀等ニ就キ調査ヲナシ其ノ普通稱呼スル數量單位ニ換算記入スヘシ但シ俵、樽、梱等ノ稱呼ヲ用フルモノハ其ノ内容ヲ摘要ニ於テ說明スヘシ

一 元價ハ各貨物ニ添付スル送狀ニ記載シタル元價ニ依リ調査スヘシ但シ元價記載ナキモノ或ハ不明瞭ナル場合ニハ其ノ貨物ノ賣買價格ヲ以テ算出記入スヘシ

一 摘要欄ニハ其ノ貨物ノ主要ナル仕出地、仕向地ヲ記入スヘシ

一 備考欄ニハ其ノ年ノ船舶輸出入ノ狀況等ヲ記載スヘシ

大正何年麥作收穫高豫想

（報告期 町村ハ其年五月廿日限）

本年收穫豫想高	前年實收高	平年作	增減 前年ニ比シ	增減 平年ニ比シ
石	石	石	石	石

記事

本年ニ於ケル麥作ノ狀況左ノ如シ

（一）氣候ノ摘否（風雨、寒暖、乾濕等ノ麥作ニ及ボセシ影響ヲ左ノ四項ニ分チ各々其ノ下部ニ記ス）

（イ）播種ヨリ出穗迄ノ間

（ロ）出穗ヨリ調査期迄ノ間

（二）病蟲害ノ有無及其ノ狀況（麥ノ病害ハ黑穗病、立枯病、班葉病、赤渋病、明頭蟲等アリ）

（イ）病害

（ロ）虫害

（三）成育ノ狀況

（イ）發芽

（ロ）分蘖（株張）

（ハ）出穗

記事

(二) 成熟

(四) 前年及平年ニ比シ收穫豫想高增減ノ事由

(イ) 作付反別ノ增減ニヨル影響

(ロ) 氣候病、虫害、肥培方法等ノ如何ニヨル影響

(注意)

一 平年作ノ算出方ハ最近七ケ年中ニ於テ最豊最凶ノ二ケ年分ヲ除キ殘リ五ケ年分ヲ合セ之レヲ五ニテ除スルモノトス

一 增減歩ヘノ算出方ハ本年豫想高ハ前年實收高ト比較ノ上多キ方ヨリ少キ方ヲ引キ前年實收高ニテ割ル「平年ニ比シ」ノ分モ之レニ準ス

大正何年春蠶景況(掃立ヨリ三齡ニ至ル)及收繭高豫想

掃立ノ初終	蠶種掃立枚數	本年豫想	前年實數	生育ノ良否	桑葉ノ過不足	收繭高 本年豫想	收繭高 前年實收
月日	枚		枚			石	
月日							

記事

本年ニ於ケル春蠶ノ景況左ノ如シ

(一) 氣候ノ適否(風雨、乾暖、寒温等ノ養蠶ニ及ボシ景況ヲ左ニ記載ス)

事

(二) 病害ノ有無及其ノ狀況

(三) 前年ニ比シ收繭豫想高ノ增(減)シタル理由

(注意)

一 框ノ製蠶種ハ百蛾ヲ以テ一枚ト計算スヘシ

第二 麥

(報告期 町村ハ其年七月十五日 郡市ハ其年七月末日限)

大正何年

	作付段別	收穫高	一段歩收穫高	價額	一石ニ付價格
	段	石	石	圓	錢
大麥 田					
大麥 畑					
稞麥 田					
稞麥 畑					
小麥 田					
小麥 畑					
田					

計		
畑	段	石
計		合
		圓
		錢

（注意）

一 第一號米表ノ注意事項ハ本表ニ之ヲ準用ス但シ作付段別及收穫高ノ調査ニ付テハ早、中、晩ノ區別ヲ爲スヲ要セス

第六 苗木

（報告期町村ハ其年七月十五日郡市ハ其年七月末日限）　自大正何年七月至同何年六月一箇年

| 桑苗 | | |

テ記入スヘシ

（備考）桑畑合計段別ヲ早、中、晩ノ三種ニ區分シ備考トシテ記入スヘシ

第八　春蠶

（報告期町村ハ其年七月十五日郡市ハ其年七月末日限）　大正何年

	飼養戸數	掃立枚數	繭量	繭價
	掃立十枚以上	掃立五枚以上	掃立五枚未滿	計
茨城縣一群馬縣一埼玉縣一長野縣一福嶋縣一其他一計				
蠶種製造地內譯				
玉繭				
屑繭				
計				

（注意）

一　養蠶戸數ハ其ノ季節ニ於テ養蠶セシ戸數ヲ記入スヘシ

一　框製ノ蠶種ハ百蛾ヲ以テ一枚ニ換算スヘシ

一　收繭高ハ收繭ノ季節ニ於テ市町村統計調査員ヲシテ左ノ方法ニ依リ調査セシムヘシ

一、先ツ各戸ノ蠶種掃立枚數ヲ調査シ

二、次ニ當年ノ豐凶ニ鑑ミ蠶業ニ關スル學術若ハ經驗アル者三名以上又ハ蠶絲會若ハ斯業ノ團體ニ就キ其ノ意見ヲ參酌シ其ノ市町村ニ於ケル蠶種一枚當ノ收繭高ヲ調査シ

三、右ノ調査ヲ終リタル後其ノ市町村ニ於ケル蠶種掃立總枚數ニ一枚當收繭高ヲ乘シタルモノヲ以テ其ノ市町村ニ於ケル總收繭高トス

一　以上ノ調査ヨリ更ニ精密ナル方法ヲ用ヰル場合ニ在リテハ特ニ本規ニ依ルヲ要セス

一　氣候ノ適否飼養ノ經過、桑葉ノ過不足等ニ付其ノ概況ヲ備考トシテ記入スヘシ

一　天蠶柞蠶ハ本表ニ準シ別表トシテ報告スヘシ

第一六　家禽

（報告期町村ハ其年七月末日郡市ハ其年八月十五日限）　大正何年六月末日現在

	飼養戸數			家禽産卵		
	十羽未滿	十羽以上五十羽未滿	五十羽以上	計	成禽價額	一羽ニ付價格
鶏					羽 圓	錢
鴨					羽 圓	錢
鵝					羽 圓	錢

	雛價額		一羽ニ付價格	箇數價額		一箇ニ付價格
	羽	圓	錢		圓	厘
鶏						
鴨						
鵝						

（注意）

一　飼養戸數ハ其ノ年六月末日現在ヲ記入スヘシ

一　産卵數ハ前年七月ヨリ其ノ年六月ニ至ル一箇年間ニ付テ調査スヘシ（産卵平均ハ七月ナリト）

一　雛ハ鷄舎トモ孵化後六箇月未滿ノモノヲ記入スヘシ

一　鷄ト鶩トヲ飼養スルモノハ飼養戸數ハ主ナル一方ニ記入シ羽數價額及産卵ハ之ヲ區別シテ相當欄ニ記入スヘシ

第五　綠肥用作物

（報告期町村ハ其年七月末日郡市ハ其年八月末日限）　大正何年

作付段別			收穫高		一段歩收穫高		價格	
田	畑	計	田	畑	田	畑	十貫ニ付價格	
			貫	貫	貫	貫	圓	錢
前年秋期ニ播種シタルモノ								
紫雲英	段							
苜蓿								
蠶豆及豌豆								
其ノ他								
計								
其ノ年春期ニ播種シタルモノ								
青刈大豆								
紫雲英								
苜蓿								
蠶豆及豌豆								
其ノ他								
計								
合計								

（注意）

一　混作、間作又ハ畦畔等ニ栽培シタルモノハ總テ見積段別ヲ記入スヘシ

一　本表ハ綠肥ノ目的ヲ以テ栽培シタルモノニ限リ調査スヘシ

一　收穫高ハ總テ生草ノ重量ヲ記入スヘシ

大正何年第一回米作收穫高豫想

（報告期町村ハ二百十日ノ五日間前郡市ハ仝三日間前）

本年收穫豫想高	前年實收高	平年作	增減	
			前年ニ比シ	平年ニ比シ
石	石	石	石	石

記事

本年ニ於ケル米作狀況左ノ如シ

（一）氣候ノ適否（風雨、寒暖、乾濕等ノ米作ニ及ボセシ影況ヲ左ノ四項ニ分チ各々其ノ下部ニ記ス）

（イ）播種當時

記

(ロ) 植付當時
(ハ) 出穂當時
(ニ) 報告當時

(二) 病蟲害ノ有無及其ノ狀況
(イ) 病害
(ロ) 蟲害

(三) 成育ノ狀況
(イ) 發芽
(ロ) 分蘖（株張）
(ハ) 出穂
(ニ) 成熟

(四) 前年及平年ニ比シ收穫豫想高增減ノ事由
(イ) 作付反別ノ增減ニヨル影響
(ロ) 氣候、病蟲害、肥培方法等ノ如何ニヨル影響

事	作付反別	收穫豫想高
水稻 粳米	反	石
水稻 糯米		
陸稻		
計		

仝一反歩當リ 合

本表ハ二百十日ノ一週間ノ景況ニヨリ收穫高ノ豫想ヲナスモノトス（大正元年ノ二百十日ハ九月一日ニ付八月廿五日ノ景況ニヨル）

（注意）

一 水稻ノミヲ調査シ陸稻ヲ脫落スルコトアルヘカラス

一 平年作ノ算出方ハ最近七ヶ年ニ於テ最豐、最凶ノ二ヶ年分ヲ除キ殘リ五ヶ年分ヲ合セ之レヲ五ニテ割ル

一 增減歩合ノ算出方ハ本年豫想高ト前年實收高ト比較ノ中多キ方ヨリ少キ方ヲ引キ前年實收高ニテ割ル「平年ニ比シ」ノ分モ之レニ準ス

大正何年秋蠶景況（掃立ヨリ三齡ニ至ル）及收繭高豫想　（町村八月二十五日限）　町村

掃立ノ初終	蠶種掃立枚數		桑葉ノ過不足	收繭高	
月日	本年豫想	前年實數	本年豫想	前年實收	
月日	枚	枚	石	石	

本年ニ於ケル秋蠶ノ景況左ノ如シ

記事

(一) 氣候ノ適否（風雨、乾暖、寒濕等ノ養蠶ニ及ボシ景況ヲ左ニ記載ス）

(二) 病害ノ有無及其ノ狀況

(三) 前年ニ比シ收繭豫想高ノ增(減)シタル理由

（注意）一 框製ノ蠶種ハ百蛾ヲ以テ一枚ト計算スヘシ

第一三 製茶

（報告期町村ハ其年九月末日郡市ハ其年十月末日限）

大正何年

製造戸數	數量	價額	一貫ニ付價格
	貫	圓	錢
玉露			
煎茶			
紅茶			
烏龍茶			

番茶					
計					
煎茶粉					
紅茶粉					
烏龍茶粉					
計					

（注意）

一 製造戸數ハ其ノ季節ニ於テ執業シタル戸數ヲ記入スヘシ

一 玉露トハ覆ヲ掛ケタル畑ヨリ收メタル茶葉ヲ蒸熱シ之ヲ揉捻乾燥シテ製ジタルモノヲ謂フ

一 煎茶トハ普通ノ茶葉ヲ蒸熱シ之ヲ揉捻乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ

一 紅茶トハ普通ノ茶葉ヲ萎凋セシメ揉捻シ醱酵セシメタル後乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ

一 烏龍茶トハ普通ノ茶葉ヲ萎凋モシクハ攪拌シテ放香ヲ促シタル後釜煎揉捻乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ

一 番茶トハ前四目ニ屬セサル劣等ノ製茶即チ古茶ヲ用ヰテ製シタル茶、欲出シ茶等ヲ謂フ

一 本表各目外ノ製茶即チ碾茶磚茶ノ如キハ其ノ數量及價額ヲ備考トシテ記入スヘシ

一 玉露粉ハ煎茶粉ニ合算記入スヘシ

大正何年第二回米作收穫高豫想（報告期町村ハ秋分ヨリ二日後郡市ハ仝四日後）

本年收穫豫想高	前年實收高	平年作	增減	前年ニ比シ	平年ニ比シ
石	石	石	石	石	石

記事					
		作付反別	收穫豫想高	仝一反歩當リ	
水稻	粳米	反	石	合	
	糯米				
陸稻					
計					

（一）本表ハ秋分（彼岸ノ中日）ノ景況ニヨリ收穫高ノ豫想ヲナスモノトス（大正元年ノ秋分ハ九月廿三日ナリ）

（二）本表記事欄ニハ第一回豫想報告後ノ出來事等ヲ叙シ今回ノ豫想ヲナスニ至レル理由ヲ記載スルモノトス

（注意）

一 水稻ノミヲ調査シ陸稻ヲ脱落スルコトアルヘカラス

一 前年收穫高及平年作ハ第一回豫想報告ト仝一ニ記ズ

一 増減歩合ハ第一回ト仝樣ノ方法ニヨリ算出ス

第九 夏蠶（報告期町村ハ其年十一月十五日郡市ハ其年十一月末日限） 大正何年

	蠶種製造地内譯						飼養戶數	掃立枚數								
	掃立三枚以上	掃立一枚以上	掃立一枚未滿	計	茨城縣	群馬縣	埼玉縣	長野縣	福嶋縣	其他	計	數量	價額	一石ニ付價格	繭	玉繭	屑繭
												石	圓	錢			

計

（注意）一 春蠶ニ同シ

第一〇 秋蠶

（報告期町村ハ其年十一月十五日郡市ハ其年十一月末日限）　大正何年

飼養戸數	蠶種製造地内譯	掃立枚數	繭數量	繭價額
掃立三枚以上	茨城縣		石	圓
掃立一枚以上	群馬縣			
掃立一枚未滿	埼玉縣			
計	長野縣			
	福嶋縣			
	其他			
	計			

繭量一石ニ付價格　錢

玉繭

屑繭

計

（注意）一 春蠶ニ同シ

第一一 養蠶戸數

（報告期町村ハ其年十一月十五日郡市ハ其年十一月末日限）　大正何年

養蠶戸數

（注意）一 本表ハ春、夏、秋各期ノ養蠶ヲ行フモノト雖之ヲ一戸トシテ計算シ重複セサル戸數ヲ記入スヘシ

第一 米

（報告期町村ハ其年十二月十日郡市ハ其年十二月廿五日限）　大正何年

	作付段別	收穫高	價額
水稻 糯米	段	石	圓
水稻 粳米		石	圓
陸稻			
計			

一段歩收穫高價額　錢

一石ニ付價格

（注意）一 作付段別ハ土地臺帳上ノ地目ノ如何ニ拘ハラス實際作付シタル段別ヲ調査スヘシ

一 苗代跡地ト雖作付シタルモノハ本表作付段別ニ記入スヘシ

一 同一ノ水田ニ水稻二回作ヲ爲シタル場合ニハ各期ノ段別ヲ合セ記入スヘシ但シ二回目作付ノ段別ハ

特ニ備考トシテ記入スヘシ

一、病害、蟲害、水害等ニ依リ收穫皆無ノ地ト雖作付セシモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

一、作付段別及收穫高ノ調査ニ付テハ市町村ヲ適宜ノ調査區ニ分チ一調査區毎ニ統計調査員ヲシテ成熟期ニ於テ實地ニ付左ノ方法ニ依リ調査セシムヘシ

一、先ツ粳米、糯米ニ付各早、中、晩別ニ其ノ作付總段別ヲ調査シ更ニ之ヨリ無收穫地段別ヲ控除シ各其ノ總收穫段別ヲ調査シ

二、次ニ粳米、糯米ニ付各早、中、晩別ニ農業ニ關スル學術若ハ經驗アル者三名以上ノ意見ヲ參酌シ又ハ標準ト認ムヘキ地區ニ付坪刈ヲ行フ等正確ヲ期シ得ヘキ方法ニ依リ一段歩當リ收穫高ヲ調査シ

三、右ノ調査終リタル後粳米、糯米ニ付各早、中、晩別總收穫段別ニ一段歩當リ收穫高ヲ乘シタルモノヲ以テ調査區ニ於ケル其收穫高トス

一、以上ノ調査ヨリ更ニ精密ナル方法ヲ用ヰル場合ニ在リテハ特ニ本規定ニ依ルヲ要セス

一、一段歩收穫高ハ單位以下三位即チ合マテ算出ス可シ

一、前年又ハ平年（平年トハ最近七箇年中ニ於テ最豐、最凶ノ二箇年ヲ除キ殘リ五箇年ヲ平均シタルモノナリ）ニ比シ增減ノ現由アラハ之ヲ備考トシテ記入スヘシ

一、陸稻ノ調査ニ付テハ前記ノ方法ニ準スヘシ但シ早、中、晩ノ區別ヲ爲スヲ要セス

大正四年七月十七日印刷
大正四年七月二十日發行

編纂者　天野廣

茨城縣水戸市上市大工町一〇七八
發行兼印刷者　小倉竹次郎

茨城縣水戸市上市大工町一〇七八
印刷所　二鶴堂活版所

327
726

終